

ようこそ 環境科学部の 研究室へ

環境システム学研究室

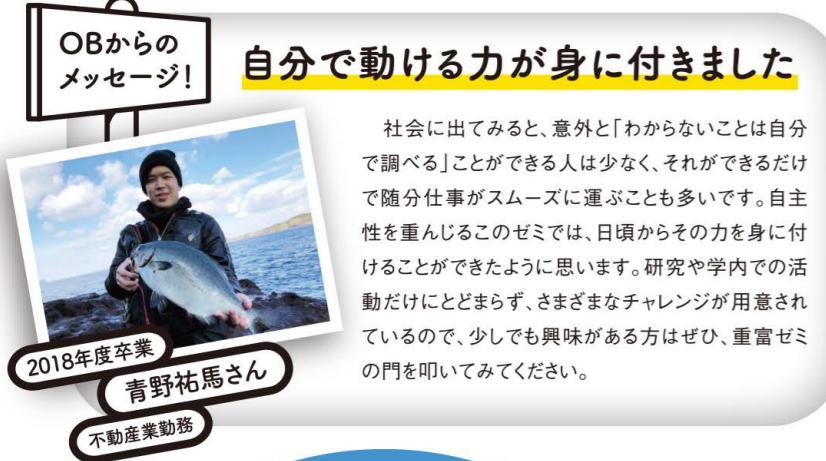


ゼミ合宿の最後の優秀発表表彰は毎回ドキドキ。

刺激がいっぱい! 他大学との学外活動が充実

普段のゼミ生活では、発表の場が定期的にあります。教員との個別の打ち合わせやゼミ生からの質問、コメントに答えていくプロセスを経て研究が形になっていきます。毎回準備が必要ですが、テーマに関する考察が深められ、論理的思考力やプレゼンテーション力、質問力を養うことができます。

学外活動もさかんです。九州大学、立命館大学、名古屋大学とのゼミ合宿は一つの目玉。また、九州大学の2ゼミとの合同卒業研究発表会や、日本LCA学会の学生部会が主催するワークショップなどにも参加しています。



大学院で研究を続けます!

長崎大学の広報誌Chohoで私の研究が取材されました。掲載後に学会発表を経験。準備期間は大変だったけど、その過程も含めて、今後さらに研究をがんばろうと思うきっかけになりました。

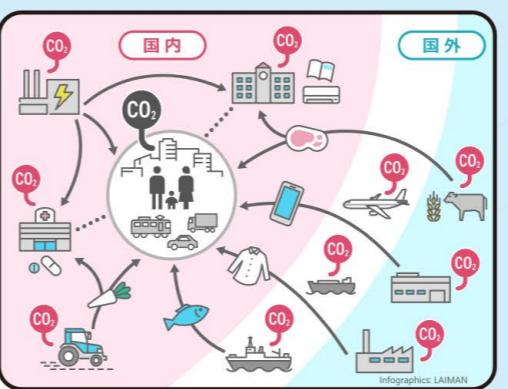


歓送迎会、忘年会、
English Cafeなど
イベントも盛りだくさ
ん！ 研究を通じて大
切な仲間ができます。



学びを生かして 地域貢献もできる

買い物のときにもう紙袋。捨てたり家で保管したままだったり、無駄になっていることが多いのではないでしょ
うか。そんな紙袋を再利用しようと始まったプロジェクトが「ナ
イスパス」。参加店に紙袋を持ち込み回収、再利用する仕組みです。このプロジェクトに重富先生が参加しています。
リユースできた紙袋の量やそのCO₂の削減量など、プロ
ジェクトの効果を数字で見える化する役目を担っています。



「見えない環境負荷」する研究で、身の回りのモノやサービスは資源とエネルギーを必要とし、私たちがそれらを利用するまでの間に、CO₂のような環境に負荷を与える物質を出しています。このような考え方をもとに、環境問題を定量的に扱う方法を「ライフサイクルアセスメント(Life Cycle Assessment: LCA)」といいます。例えば、「このLCA」に基づいた研究では、電気自動車のようなエコカーは、同サイズのガソリン車よりも製造までの環境負荷が大きく、一定距離以上を走らないと真にエコとは言えないことが分かります。

Q どんな研究に取り組んでいるのですか?

Q 研究テーマは先生が決めるのですか？

A 興味のあるテーマを見つけてください。

A 大丈夫です！
Q 理数系が苦手です。

解析ソフトの使い方など、研究に必要な知識やスキルは私や先輩がサポートします。文献調査が主になる研究を

Q

研究は実社会と
どのようにつながっていますか。

きみの興味を“見える化” 環境と私たちをつなごう



子どもの頃から好きな教科は国語と社会でしたが、高校は理系に進み、大学も工学部に進学しました。自分にこの道は向いていないと感じる中で転機になったのは、4年生で所属した大気環境学の研究室。そこで環境問題に関心を持ち、データ解析の面白さに目覚めました。